

命から教えてもらった命

六年 加藤里織

今年、私の家に一匹きの子犬がやって来ました。私はその子犬に「ラフ」という名前をつけました。英語で「笑う」という意味です。その日から、私の毎日はガラリと変わりました。そして今までよりたくさんの楽しみがうまれました。でも犬を飼うと、お世話やそうじなど、断然大変な事が多くなります。なのになぜ、毎日をもっと楽しくなったのでしょうか。それは、今までになかった感情に出会えたからだと思います。

私は犬を飼って見て、今までになかったいろいろな感情が出てきました。まずは「かわいい」という感情です。それは今までの「かわいい」とは少しちがいます。今までののは、洋服やぬいぐるみを見て思っていました。でも今は、気持ち良さそうに変な格好で、すやすやとねているのを見る時、これでもかというくらい飛びはねて私を出むかえてくれる時、大好きなきゅうりを目の前にしてうれしさをおさえず、クルクルと回っている時などに「かわいい」と思います。ソファーにおしっこをされたり、かべの角をガリガリにされたり、ふつうならおこりたくなるような事も、全てかわいく感じてしまいます。ラフに対するかわいさはまるで親になったような気持ちで、ぎゅーっとして、顔をむぎゅむぎゅし

たくなるようなかわいさなのです。それに加えて、親になった私は、ラフの命を「守らなければいけない」という感情もできました。その感情が行動に表れたのか、苦手だった強敵の虫も、ラフを守るためだったら、自然とたたかえます。それは、その虫にさされて病気になるのを防ぎたい一心だったからだと思います。お世話もいやになりません。ケージをそうじするのは、きたないと病気になるそうだから。毛の手入れをするのも、健康を保つためです。全て命に関わると思えば、いやどころか、やってあげたくて仕方がないという気持ちになります。けがをしそうになった時、おもちゃを飲みこんでしまった時などは、私はとても心配性になります。それも、今までにはなかった感情です。とにかく私は親バカになり、新しいおもちゃを見れば買いたくなり、おいしそうなおやつを見れば、あげたくなります。そして、それが食べてもいい物なのか、考えてしまいます。いつも、ラフの命について考えるようになりました。これは、私の親が、私に対して思っている事と全く同じだという事に気がつきました。

このように、ラフの命の大切さに気づくと、他の犬の命も気になり、他のすべての命も気になり、私の命も守らなければいけないという気持ちになります。なぜなら、私の命がなければ、親も悲しむし、何もできなくて、ラフの命も守れないからです。だからまずは、私がしっかりと生きなければいけないと思いました。このことは全部、ラフから教えてもらった事なのです。